

良弁僧正1250年御遠忌記念

収蔵品展「栗東の神・仏」

会期：令和5年9月16日（土曜日）から

11月26日（日曜日）まで

開館時間：9時30分から17時まで（ご入館は16時30分まで） 入館料：無料

会期中の休館日：毎週月曜日（9月18日、10月9日は除く）

9月19日（火曜日）、10月10日（火曜日）、11月24日（金曜日）

【関連企画】・展示解説会

9月18日（敬老の日）、9月23日（秋分の日）

10月9日（スポーツの日）

11月3日（文化の日）、11月23日（勤労感謝の日）

いずれも14時から（1時間程度）

主催：栗東歴史民俗博物館（滋賀県栗東市小野223-8）

TEL：077-554-2733、FAX：077-554-2755



（背景）金勝山の風景

良弁僧正坐像（金勝寺所蔵）

※「良弁僧正坐像」は出品されません。金勝寺本堂でご覧下さい。

良弁僧正1250年御遠忌記念

収蔵品展「栗東の神・仏」

滋賀県の南部に位置した旧栗太郡は、栗東という地名が「栗太郡の東」に由来するように、大津市の瀬田川より東側、草津市と栗東市の全域、そして守山市の一部（物部地区）にまたがる広い地域でした。旧栗太郡一帯は、豊かな宗教文化が花開いた地域として知られていますが、その中心の1つに栗東市南部の金勝山に建つ金勝寺があります。令和5年（2023）は、金勝寺を開いた僧・良弁（689～773）の没後1250年の記念の年（1250年御遠忌）にあたります。

良弁が金勝寺を開いたのは、奈良時代前期の天平5年（733）のことです。聖武天皇の勅願により、平城京（奈良市）の鬼門（東北）を守る国家鎮護の祈願寺として、金勝寺が開かれました。

その後、平安時代初期の弘仁年間（810～824）に、興福寺の僧・願安によって伽藍が整備され、仏像が安置されたと伝えられています。金勝寺は、平城京を中心に栄えた南都仏教の影響下で開かれ、整備されていったのです。

南都仏教の影響下で開かれた金勝寺ですが、金勝山の北麓が開発されるにつれ、北麓の集落との関わりを強めていくようになります。そして、金勝寺を中心とした仏教文化が花開いていきました。



金勝寺参道と山門
（「第28回RITTOフォトコンテスト最優秀賞」）

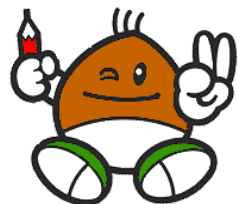


木造広目天立像（大通寺保存会）

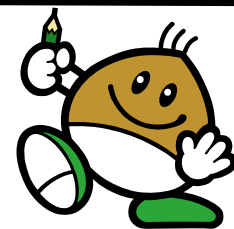
金勝寺に登っていく山道の登り口付近に位置する荒張の走井という集落には、数軒の家が大通寺保存会という保存会として守る仏像（広目天立像）が伝わっています。この広目天立像も平安時代の作例で、滋賀県指定有形文化財に指定されていますが、もともとは四天王（または二天）のうちの1軀であったと考えられます。大通寺は小堂であり、ここに四天王として4軀が置かれていたのか、あるいは同じような小堂が他にもあって、それぞれに1軀ずつ置かれていたのか、現在では詳細を知ることができません。

大通寺の広目天立像は、栗東歴史民俗博物館の開館以来、寄託資料として収蔵されてきましたが、大通寺保存会の皆さんは、毎年、お参りに来られています。学芸員を初めとする職員にとっても、普段収蔵資料として見ている仏像が、信仰の対象として生きていることを実感できる貴重な機会となっています。

栗東歴史民俗博物館では、良弁僧正1250年御遠忌を記念する収蔵品展「栗東の神・仏」（会期：9月16日**土曜日**から11月26日**日曜日**まで）を開催し、栗東に花開いた宗教文化について紹介します。



栗東歴史民俗博物館 クイズラリー



期間：10月1日（**日曜日**）から10月31日（**火曜日**）まで

良弁僧正1250年御遠忌記念・収蔵品展「栗東の神・仏」の会場で、クイズラリーを開催します。全問正解者には簡単なプレゼントを用意しています。